

著作権に関する注意

本校の入試問題は著作権の対象となっており、著作権法で保護されています。
「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、無断で複製・転用することはできません。

お断り

本校の入試問題中で引用した文章・文献等について、著作物保護の観点から一部掲載を控えた箇所があります。ご了承ください。

二〇二〇（令和二）年度

東北学院高等学校入学試験問題

〈一般 A日程〉

国語

二〇二〇（令和二）年二月四日（火）

九時～九時五〇分（五〇分間）

注意事項

- 一. 受験番号・氏名を解答用紙にはっきり記入すること。
- 二. 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- 三. 解答用紙だけを提出すること。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改めた箇所があります。)

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

(茂木健一郎『脳と創造性「この私」というクオリアへ』より)

問一 —— 部(1)「コントロール可能性は単なるフィクションにすぎない」について、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 厳しい生存競争を勝ち抜いて、自分の命をいつまでつないでいくことができるかに関して、誰にもわからず、不透明であること。
- イ 食べ物などの生活に必要なものを、あらかじめ準備しておくことができるという考えは、あてにできず不確実なものであること。
- ウ 思ってもみなかった新しいものが生まれるかもしれないなどということは、不確実なことであり、簡単に口に出してはいけないこと。
- エ 自然の中で生きて行く中で、どのような問題に直面するかは誰にもわからず、予想して備えておくことなど全くできないこと。
- オ 世の中でずっと同じであり続けるものなどないという変化を前提にすると、予測する未来の姿は決してあてにはならないこと。

問二 —— 部(2)「かわいらしさにはほど遠い理屈」について、その内容を本文中の表現を用いて七十字以内で説明しなさい。(ただし、句読点も一字とし、以下同様とします。)

問三 —— 部(3)「生物の進化の歴史」とはどのようなことですか。本文中の表現を用いて説明しなさい。

問四 —— 部(4)「感情の技術を磨く必要がある」について、筆者がこのように考える理由を本文中の表現を用いて説明しなさい。

問五 —— 部X「その乗り越え方が人間とコンピュータでは違うのである」について、本文全体をふまえて、コンピュータと違う人間の「乗り越え方」の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア コンピュータと違って、人間は他の生物との競争に打ち勝つために互いに力を合わせて乗り越えようとする。
- イ コンピュータと違って、人間は生存競争の中で弱いものを淘汰し、強い存在だけを残して乗り越えようとする。
- ウ コンピュータと違って、人間は脳の感情のシステムをうまく進化させて創造性を高めて乗り越えようとする。
- エ コンピュータと違って、人間は感情の技術を磨いて直観を働かせ、不確実な状況に挑み乗り越えようとする。
- オ コンピュータと違って、人間は複雑な感情をコントロールし、がまんすることによって乗り越えようとする。

問六 この文章の構成・展開に関する説明として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間について、コンピュータとの違いや他の生物との共通点に触れながら、不確実な状況を乗り越えるに際して直観を信じて行動することの大切さを強調している。

イ 未来の予測に関するコンピュータの優位性を説明した上で、人間は科学技術を進歩させながら、かろうじて生存競争を勝ち抜いてきた頼りない存在であることに言及している。

ウ 生物全般が不確実な状況にどのように対応するかを多角的に分析した後に、他の生物との違いに注目し、人間が脳と感情とをうまく活用して状況を打開していく様子を述べている。

エ 人間も他の生物同様見通すことのできない状況に出あった際には、協働して知恵を出し合い新しいものを生み出しながら生き延びていくことを、多くのたとえを適切に用いながら考察している。

オ コンピュータと人間の共通点に着目し、論理を積み上げながら予測不能な状況に立ち向かうことの妥当性を、具体例を効果的に用いながら示唆している。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改めた箇所があります。)

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

(伊集院静『夕空晴れて』より)

問一 ～～～部A「親馬鹿」、B「嗚咽」の意味としてふさわしいものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|---------|-----------------|
| A 「親馬鹿」 | |
| ア | 親が子供のことに関心である。 |
| イ | 親が子供のことに関心である。 |
| ウ | 親が子供に対して過保護である。 |
| エ | 子供が親に対して過干渉である。 |
| オ | 子供が親のことに無知である。 |
- | | |
|--------|-----------------|
| B 「嗚咽」 | |
| ア | 大声を上げて泣きさげぶこと。 |
| イ | 動揺して言葉にできないこと。 |
| ウ | 苦しきのあまり声が出ないこと。 |
| エ | 人目を避けてこっそり泣くこと。 |
| オ | 息を詰まらせるように泣くこと。 |

問二 本文中の について、「冷泉」と「由美」の会話が成立するように、ふさわしい表現を考えて答えなさい。

問三 ———部(1)「そこまで言って、由美は言葉を切った」について、この場面の「由美」の説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ちょっとのぞいただけ」と言うことにより、冷泉がどのような反応を示すのか、こっそりと観察している。
- イ 冷泉に対する嫌悪感が変化したことで、この訪問が本当に良かったのかわからなくなり、迷いが生じている。
- ウ 親として相手に伝えたい思いはあるが、冷泉への遠慮の気持ちから、すぐに言い出すことをためらっている。
- エ 冷泉にそれまでの考えを一気に話した結果、かえって自分の頭の中が混乱してしまい、言葉に詰まっている。
- オ 冷泉への言いようのない怒りの気持ちが少しずつ強まり、次に話す言葉を何にするか、必死に考えている。

問四 —— 部(2)「私の野球に対する考えも奥さんと同じだったんです」について、この時なぜ「冷泉」は「由美」に共感したのですか。その理由を説明した次の文の空欄を補うのにふさわしい表現を、指定された字数でそれぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

試合に出られない息子を I (五字) に思う由美は、II (七字) ことだけが夢だったかつての自分と、野球は III (七字) にするものと考えている点で同じだと思ったから。

問五 —— 部(3)「神様がこしらえた野球」の説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 互いの力が拮抗^{きっこう}して、勝負の行方は誰にもわからない野球。
- イ 周囲の人々と協調することで、充実感を味わう野球。
- ウ 選手それぞれが、自分のやりたいプレーをする野球。
- エ チームの実力以上に、連戦連勝が不思議と続く野球。
- オ チーム一丸となり、目の前の勝利に最後までこだわる野球。

問六 —— 部(4)「先輩は自分に『俺の息子がもし野球をしたいと言いはじめたら、冷泉、おまえが教えてやってくれ』と笑って言われました」について、「悟」がこのように言った理由を説明しなさい。

問七 —— 部(5)「本当にすみませんでした」について、この時「由美」が謝った理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 冷泉の言葉から、夫と違って息子には野球の才能が全くないことを嫌というほど思い知らされ、それを教えてくれた冷泉を初めは憎らしく思っていた自分の勘違いにやっと気づき、後ろめたさを感じたから。

イ 夫が信頼を寄せていた人に心配をかけてはいけなないと、夫の深刻な状況を冷泉には内緒にしていた自分の甘い判断を後悔し、結果的に冷泉をだましてしまったことに、言いようのない罪悪感を覚えたから。

ウ 冷泉が、夫以上にあたたかい目線で息子を見守ってくれていたことに少しも気づかず、一方的にチームへの不信感をつのらせていたことが誤りだったと悟り、夫にも冷泉にも申し訳ない気持ちになったから。

エ 夫の野球への思いや、その遺志を受け継いで少年野球を指導している冷泉の気持ちを全く知らないまま、母親としての不満をただぶつけただけの自分が情けなくなり、冷泉に対して申し訳なく思ったから。

オ 夫の遺志を代弁した自分の言動のせいで、試合で勝とうと真剣に選手を育成している冷泉の、これからの指導に悪影響を与えるのは確実であるとわかり、そのことについてすぐにでも謝罪したかったから。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改めた箇所があります。)

著作物保護のため掲載を控えます

(本居宣長『玉勝間』より)

問一 〰〰〰部A「言ふ」、B「かなはぬ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 〰部(1)「交じらざるにあらず」を現代語に直しなさい。

問三 ———部(2)「いかでかはただ一言一わざによりては定むべき」から読み取れる筆者の考えとしてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一つの言葉や行動にも、その人の人柄はあらわれるものだ。
- イ 一つの言葉や行動で、相手の性格を見定められるようになりたい。
- ウ 一つの言葉や行動では、定められた運命はわかるはずがない。
- エ 一つの言葉や行動にも、注意を払って生きなければいけない。
- オ 一つの言葉や行動で、人の善し悪しを定めてはいけない。

問四 次の会話は、本文について五人の生徒が話をしている場面です。この中で本文の内容と異なる発言をしている生徒を一人選び、ア～オの記号で答えなさい。

- ア 生徒A—この文章で言っているように、ものの理屈はそもそもよくわからないので、それを表現するのは難しいよね。自分もそんなときは、ひどくもどかしく思うよ。
- イ 生徒B—学校でも正しく理解はしているけど、その内容を発言しない人もいるよね。この文章ではその人の存在について知らせてくれているんじゃないかな。
- ウ 生徒C—その逆の人もいるよね。この文章では口は達者だが、行動がともなわない人がいることも指摘されている。自分もそうなくていいかどうか、常に自分の言動を確かめていかなきゃいけないな。
- エ 生徒D—ここでは、口は達者だけれど、それをうまく文章に表現できない人についても言われているね。話すのと書くのでは、また違った難しさがあるもんね。
- オ 生徒E—その裏返しの内容もこの文章には含まれている。口は下手だが、文章はたくみな人もいるということ。全体としてこの文章では、さまざまな例をあげながら、お互いの理解が一方的にならないように戒めているんだね。

四

次の①～⑩の——部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- ① イリヨウ技術が急激に進歩する。
- ② よくセントウして決める。
- ③ 病人を適切にカイホウする。
- ④ 朝食を軽めにスます。
- ⑤ 新たな提案をシヨウダクする。
- ⑥ 年始に神仏を拝む。
- ⑦ 老後の生活資金を蓄える。
- ⑧ 明治期の作家の作品に傾倒する。
- ⑨ 愛惜の念に堪えない。
- ⑩ 川の水の清濁を調べる。